

家庭教育学級新聞

発行 山武市教育委員会生涯学習課

山武市殿台 279-1

TEL 0475-80-1456 FAX 0475-80-1400

Email:shogaigakushu@city.sammu.lg.jp

「命」をテーマに心をつなぐ読み聞かせライブ

成東小第3回家庭教育学級 H22. 1. 15(金)

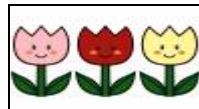
今回ご紹介するのは、成東小学校の第3回家庭教育学級です。

保護者のみなさんが参加しやすいように授業参観の前に時間を設定したこともあり、多くの参加者に読み聞かせライブを楽しんでいただくことができました。

成東小の読み聞かせメンバーによる素話・手遊び実演からサプライズ企画として校長先生による絵本の朗読まで盛りだくさんの内容で、参加者からは「感動した」という声がたくさん寄せられました。



(裏面に続く)



参加者には、学校の先生方それぞれのお勧めの本が書かれた手作りしおりがおみやげに配られました。

【読み聞かせのポイント】

ゆっくり、はっきりと心を込めて
声色は使わず、自然に

我が家の子育て

山武市教育委員会生涯学習課

課長 関谷 一徳



私が、この家庭教育学級新聞に、執筆できるような子育てができたとは思っておりませんが、担当者からの要請で、第1号で執筆をいただいた金田教育長からバトンを受けて執筆させていただきましたこととなりました。

まずは、自分の子育ての前に「幼児期における教育の重要性」などについて、少し書かせていただきます。

人の一生において、幼児期は、心情、意欲、態度、基本的生活習慣など、生涯にわたる人間形成の基礎が培われる重要な時期だと言われています。

従って、この時期に経験しておかなければならないことを十分に行わせることが、将来、人間として充実した生活を送る上で不可欠であり、我々大人は、幼児期における教育が、その後の人間としての生き方を大きく左右する重要なものであることを認識し、子どもの育ちについて常に関心を払うことが必要だということです。

子育てとは、子どもに限りない愛情を注ぎ、その存在に感謝し、日々成長する子どもの姿に感動して、親も親として成長していくという大きな喜びや生きがいをもたらす営みであるということです。愛情については、もしやすると、過干渉、あまやかしという結果にもつながる原因にもなりかねないと思われませんが、教えること「躰」を親として、子どもと良いコミュニケーションを持ちながら、しっかりと感情に走らず、意識的に教えてあげる事が大切であると思います。

さて、私の子育てについてですが、一人っ子ということで過干渉になることも少しはあったのかなと感じるところもありますが、二つの子について特に意識を持って育ててきました。

その一つは、物を欲しがることへの我慢です。私が育った時代は、まだ物があまり無い時代、欲しい物を買ってもらえず我慢し、物を大事にできたことが思い出され、子どもには物を大事にする気持ち、物を通じて我慢するといった気持ちを身につけてもらいたいという願いからそう思ったと思っています。

また、子どもが小さいときは、欲しい物の額も小さく安易に買ってやることができましたが、成長

※このコーナーは、リレー形式で順次自分の子育てについて、エピソードや思うことなど気ままに書いていただく予定です。お楽しみに。

に伴い額も大きくなってくると、全て買ってやることができなくなります。その時に子どもが反発し、親子の間に問題が生じたという例を聞いていたことも理由の一つでした。

二つ目は、悪いことをしたことに對する責任逃れの弁解をせず、過ちを素直に認めることです。人は時には過ちを犯します。でもその過ちを正当化し責任を逃れようとすることを私はとても嫌なことと思っています。だから子どもには、そういった大人になつてほしくないと思っていたのです。今でもはつきり憶えています。あることで叱ったときに、子どもが弁解し「だって」という言葉を吐きました。その時、私は感情的ではなく「躰」という意識で、殴ったことを覚えていきます。今思えば殴らず言葉で理解させた方が良かったと思っています。

また、子どもの頃の体験は、学業でも大人になつてからもとても大切なことと感じてきたこともあって、まだ幼稚園か小学校低学年頃だったか、子どもにも一人で切符を買わせ電車に乗らせたことや、博物館などによく見学に連れて行ったことが思い出されます。

このように、親として特に、ここに執筆できるような子育てをしてきたわけではありません。反抗期には言うことを聞かず、親から遠ざかることもありましたが、一番大切なことは、愛情(過干渉でない)を持つてコミュニケーションに心がけ、成長過程に応じた教えを適切に行うことだと思っています。私は、家庭教育に携わる仕事をしてきたこともあって、家庭教育の講演などを聞く機会に恵まれたことも自分の子育てに役立つてきたと思います。

また、今思えば、私たち夫婦は共稼ぎでしたから子どもの育ちの影響は、祖父母の愛情・関わりによるものが大きかったのではと思っています。現在、核家族化により、そうした祖父母との良い家庭環境が少なくなつた家庭が多くなつてしまったことを残念に思うことがあります。

私の子どもは、現在三〇歳、ようやく結婚し、子どもも授かることができました。前号の教育長の言葉にありましたが、なんとか人並みに今日まで来られたことに安堵の気持ちでいっぱいです。

最後に、その子どもが妻に「生まれてくる子が男の子だったら厳しく育てるよ。」と言ったそうです。私の子育ては厳しかったのでしょうか。自分が親になり、自分を育てた親をどう思っているのか聞いてみたいと思つていところですが、それが私の子育ての答えであると思いません。まとまりがなく参考にならないかもしれませんが、私の子育てについて執筆させていただきました。



軍手人形による素話

ちょっと紹介 おすすめの本

幼児向け

本選びのポイントは読む人の興味のあるもの

「ねえ、どれがいい？」 ジョン・バーニンガム／作 評論社
「ぐりとぐら」 中川季枝子／作 福音館書店
おしいれのぼうけん ふるたたるひ／作 童心社 ほか

小学1・2年生向け

さっちゃんのみほの手 たばたせいいち／共同制作 偕成社
ゆずちゃん 肥田美代子／作 ポプラ社
王様と九人のきょうだい 君島久子／訳 岩波書店 ほか

小学3・4年生向け

おもしろくて役に立つ子どもの伝記全20巻 ポプラ社
ぼくは王様シリーズ 寺村輝夫／作 理論社

※「絵本ナビ」というHPが、わかりやすく参考になりますので、ぜひご覧ください。



図書館司書おすすめリスト本

読み聞かせは子育てにとっても良い影響を与えます。
参加者のなかに「大人になってしまったので読み聞かせをしてもうこうともないが、とても感動した」という感想がありました。大人でも感動するのですから、子どもが毎日読んでもらえたらどうでしょうか。
一人でも多くの子ども達に読み聞かせをしてもらったという思い出を作ってもらいたいと思います。
その思い出は、大人になって思い出しても優しい気持ちになれるものがあるはず。



絵本を朗読する今関校長先生

【図書館のおはなし会】

成東図書館 第1・3土曜日午後2時半から
さんぶの森図書館 毎週土曜日午後2時から
松尾図書館 毎週土曜日午前11時から
特に対象年齢はないので、都合のつく時にお子さんと行って、お勧めの絵本等を司書の方に聞いて参考にして借りてみるのもいいですね。司書推薦リスト本もあります。

読み聞かせの時期を過ぎてしまったら・・・

今さら読み聞かせなど考えられない年齢になっているが、本を読まなくて困っているという場合はどうしたらよいでしょうか。
急に本好きになることはあまりないので、まずは親自身が本に親しみその姿を子どもに見せることではないでしょうか。そして、読んだ本の内容や感想を子どもに話してみたらどうでしょうか。興味を持ってくれたら、自分で読むように勧めてみたらいかですか。



平成22年度家庭教育学級合同開級式講演会

日時 平成22年5月26日(水) 午前10時から12時
場所 山武市成東文化会館のぎくプラザホール
講師 井内清満先生(友懇塾理事長)
内容 非行に走った少年の事例より子育てで大切なことについて



講師の井内理事長

お待ちしてまーす!



新年度合同開級式の講師は特定非営利活動法人ユース・サポート・センター・友懇塾の井内清満理事長にお願いしました。21年度第2回の講師としてお願いしていましたが、新型インフルエンザの影響で中止になってしまったので、改めてお願いすることにしました。

家庭裁判所と協働で非行少年の立ち直りを支援するためのJR千葉駅前を中心とした清掃活動をはじめとした様々な活動はテレビや新聞などでしばしば紹介されています。「人間が好き、子どもが好き」という気持ちが活動の原点。

自宅の庭に12坪の平屋を建て「家に帰れない、学校に行けない子ども達の居場所」として開放し、親代わりになって関わったことが、現在の活動につながり、幅広い活動で非行少年の立ち直りを支援しています。

3月10日の中学の卒業式前になんとか間に合わせて、山武市家庭教育学級新聞第2号を発行することができました。
お子様が中学を卒業されてしまう保護者のみなさまには、これが最後になってしまうかもしれませんが、もし学校を訪問する機会がありましたら、校内にはカラーコピーされた家庭教育学級新聞が掲示されていますので、そこで見ていただくことができます。
また、教育委員会本庁舎にお越しの際には、生涯学習課のカウンターに各家庭配布と同じものが置いてありますので、遠慮なくお持ち帰りください。
これから、また新年度に向けて少しでもみなさまの子育ての役に立つ内容を提供していけたらと思いますので、よろしくお願いたします。

担当 加瀬

